

21 医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂^{*1}錦織 宏^{*2}

2018年版の医学教育白書において、「コア・カリキュラム改訂」のタイトルで、執筆を担当させていただいた。その折は、ちょうど2016年3月末に医学教育モデル・コア・カリキュラム（以下、コアカリ）が改訂になったため、実働を担当する調査研究チームの一員の立場からその概要を書かせていただき、また、次回改訂で検討を希望する内容についても提言させていただいた。今回の『医学教育白書2022年版』の執筆の依頼を受けた2021年秋現在、コアカリの次期改訂に向けた作業が進められており、私も再び調査研究班の一員として汗をかかせていただいているが、まだ作業が途中段階にあり、公表されている内容が限られている。よって本稿では、次期コアカリ改訂に関して公表されている内容をもとに、現在位置をまとめてみることにする。

コアカリの改訂にあたる実務作業を行う調査研究班を「医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの次期改訂に向けた調査研究（大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業）」として文部科学省が公募したのは2020年夏のことであった。これに対して、日本医学教育学会が応募して採択を受けたことは本学会史上初めてのことであり、そのことに対するちょっとした興奮が文部科学省のWebページに掲載されている調査研究班がまとめた令和2年度の報告書¹⁾の巻頭に小西靖彦理事長の言葉でも記載されている。本学会の持つ英知を医学教育の政策に有効に生かすことができるかという意味において、本学会の意義が問われる良い機会にもなったようにも思える。またこれに

伴い、本学会内において「医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会」が結成されている。

医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの次期改訂に向けた調査研究班（以下、調査研究班）が令和2年度に行った活動は大きく3つに分けられる。報告書¹⁾には1) コアカリが学修者へ及ぼす効果について、2) コアカリが各大学のカリキュラムに与えた影響について、3) 感染症教育のあり方について、の形でその内容がまとめられており、以下にその概要を記す。

1) では医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）の共用試験の結果やオンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）の評価結果などを参考にコアカリの影響を分析している。そして、コアカリ改訂による直接の影響かどうかの評価は難しいものの、それによって学修者の能力の向上が図られていることが示唆されたと結論づけている。また今回の改訂において、卒前卒後の臨床能力に関するシームレスな評価システムを構築すること、改訂に対応したアウトカム指標を設定すること、各大学のIR（Institutional Research）データから共通ベンチマーク指標が利用できる体制を構築すること、などが提言されている。

2) では、全国82大学へのアンケート調査の結果をもとに分析が進められている。全般的な調査に加えて、平成28年度版のコアカリで改訂された主な項目、すなわち、a) 臨床研修の到達目標と共通化された「医師として求められる基本的な資質・能力」、b) 「診療参加型臨床実習」の充実、c) 「地域医療・地域包括ケアシステム」の教育、d) 「腫瘍」の充実、e) 準備教育コアカリのコアカリ本体への融合、についてより詳細に分析が行われている。提言は多岐にわたるため本稿では割愛するが、いずれも非

^{*1} Core Curriculum in Medical Education : Revisions

^{*2} Hiroshi Nishigori 名古屋大学大学院医学研究科総合医学教育センター

常に示唆に富む内容なので、ぜひ報告書をご一読いただきたい。

3) では、感染症教育のあり方について、13名の国内外の専門家を対象としたインタビュー調査を実施して、その内容をまとめている。提言としては、a) 感染症に関する「考え方」を叙述的に記載し、大枠を明示する、b) 頻度の高い微生物および疾患を厳選する、c) 感染症領域の到達度を具体的に示す、d) 感染症以外の領域に関する水平統合と垂直統合を進める、などの他、教育方法や教材、教育人材に関する内容にも及んでいる。新型コロナウイルス感染症を契機に、本邦の感染症教育に関する課題が浮き彫りになったことは、多くの人が頷くところであろう。今回の改訂ではこの分析を元に感染症教

育に関する充実化が期待される。

コアカリについて考えることとは、「日本の医学部医学科に所属するすべての医学生が学べき内容」を考えることであり、それは本邦に医療の質、ひいては国力にも影響する。2026年度版の白書には令和4年度に改訂され発表される新しいコアカリの内容に関して記載されることと思うが、日本医学教育学会が総力を挙げて取り組む今回の改訂について前向きな言葉が並ぶよう、現在の作業に注力したいと考えている。

■文 献

- 1) https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/mext_01484.html (最終閲覧日：2022.3.8)